講義名	教養特講Ⅰ（経済学科へのいざない）			授業形態	
担当教員	三谷　哲雄／植松　宏之／吉川 満／ 上瀬　真生／竹内　信行／辻　美代／ 中島　孝子／仲間　瑞樹／羽森　直子／ 三原　裕子／村上　友章／森澤　龍也	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 ４時限		
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

■注意■
※PDFファイルでは全ての内容が表示されない場合があります．必ずRYUKA Portalから参照できるシラバスのWebページを確認してください．
※本シラバス内に記載している「キャンパス クロス」は，本学で2023年度から導入(予定)される新しい学修支援システムの名称です．「キャンパス クロス」の概要や使い方などは，教務部に問合せてください．
※「備考」には，「受講上のアドバイス」を記載しています．必ず確認してください．
※教養特講Ⅰ（経済学科へのいざない）および教養特講Ⅰ（経済情報学科へのいざない）の基本的なねらいは同じです．このため，共通のシラバスで実施します．ただし，授業計画の一部が学科ごとに異なるので注意してください．
■■■■

本科目のねらいは，皆さんが今後４年間かけて経済学部の経済学科および経済情報学科のディプロマ・ポリシーに掲げた資質・能力を獲得するのために，自分にとって必要な学びやその道筋のヒントを得ることです．

そのためには，できるだけ早い段階で，学科の学び，開講されている科目，その担当教員，などを知ることがとても重要となります．そこで，本科目では，各学科の学びの概要を紹介するとともに，開講年度において学科専門科目を担当している教員が１回ずつ順番に，1) 自己紹介，2) 開講年度に担当している科目や関連科目の紹介（概要，学科やコースでの学びの位置づけ等），3) 担当科目や関連科目に関わるトピックスやおすすめ科目の紹介，等を行います．なお，本科目ですべての専門科目を紹介することはできません．紹介されなかった科目は，各自でシラバスを参考に内容などを確認してください．

到達目標

受講生は，将来の夢や目標（なりたい自分）に向けた４年間の学びの道筋を考えるために必要な経済学部での幅広い学びについて「知る」ことができるようになる．さらに，自分にとって必要と思う科目，興味・関心を持った科目を「見つけ出す」ことができるようになる．

提出課題

各回の担当教員により異なります．提出方法も，授業時間内での提出，キャンパス クロスやRYUKA Portalでの提出，印刷物での後日提出など様々です．担当教員からの説明を聞いてください．

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各教員ごとに，学生からの問い合わせに応じて適宜対応します．

評価の基準

各回の担当教員の評点（10点満点）を合計します．その合計点数を100点満点に換算したものが成績となります．各回教員ごとの評点は，出席，授業参加度，授業に対する感想，課題レポート，小テスト，など教員ごとに異なります．なお，最終課題（５点満点）は，成績にそのまま加点します．それが，最終的な成績となります．

履修にあたっての注意・助言他

(0) 授業の実施方法

1) 実施形態
　この科目は，「原則対面で実施する科目」です．

2) 学校感染症の中で特に新型コロナウイルス感染症による影響で一時的に通学が困難となった場合
　当該学生には，通学停止期間中の対面授業の講義資料の配布，授業動画の提供，通学停止期間中に提出期限が設定された課題の別途提出許可，要望に応じて補習授業の提供，などを必要に応じて実施します．詳細は，該当する授業日の担当教員の指示に従ってください．

(1) 本科目の履修判断

本科目は，「全学共通科目／教養科目／教養一般・教養特講」（最低必要単位数は8単位）に含まれます．この科目区分には，本科目以外にも多くの教養科目が開講されています．「本科目の到達目標くらいのことは自分でできる」という学生は，本科目を履修する必要はありません．
ただ，本科目のような学科専門科目の全体像を知る機会は，ほかにありません．学科の学びの内容をある程度知っている場合でも，個々の専門科目の担当教員や担当科目のことを知っていると，今後の科目履修の参考になるだけでなく，２年生から始まる専門演習（通称，ゼミと呼ばれる特別演習科目）の選択にも役に立つはずです．その意味でも，履修することを強くお勧めします．

(2) 出席の重要性

原則として，毎回異なる教員が，異なる内容で講義を行います．経済学部および各学科全体の学びの内容の理解のためには，全教員の講義に出席することが重要です．さらに，各教員から出される課題を

教科書

・使用しない．				

参考図書

・なし．				

その他

必要に応じて各回の担当教員が指示します．講義で配布された資料は，他の回でも使用するかもしれません．また，大学より配布された「履修要項」や「科目一覧表」などの資料は，本講義における科目確認などで利用する機会があるかもしれません．これらの資料は，毎回，持参しておいてください．

授業計画

01 （両学科合同） 教室：2111／担当：代表教員(三谷)＋経済情報学科主任／主題：イントロダクション
　内容　　1．本資料にて講義概要の説明
　　2．経済学部の学びと各学科の位置づけ
　　3．各学科の学びの概要
　　4．コースの概要
　　5．次回以降の内容の説明
　講義資料　01-0　本科目の概要　（この資料）
　　01-1　経済学部の学びの特徴／各学科の教育課程の特徴／各学科の２コースの概要
　　01-2　参考資料－１　経済学部の教員一覧表
　　01-3　参考資料－２　経済学部に関わる専門科目一覧表
　　01-4　参考資料－３　身につくこと・将来像ごとの専門科目とその履修系統図
02 （両学科合同） 教室：2111／担当：代表教員(三谷)＋経済情報学科主任／主題：次回以降の準備
　内容　　1．教員プロフィールの確認方法
　　2．科目シラバスの確認方法
　　3．各自で準備作業
　　・必ず履修しなければならない学部専門科目のチェック
　　・配布資料などを参考に興味や関心のある科目のチェック
　　・各教員や担当科目シラバスの下調べ（次回以降も随時実施）等
03 ～ 14　主題：各教員による講義
　03　（両学科合同） 教室：2111／担当：仲間瑞樹
　04　（両学科合同） 教室：2111／担当：植松宏之
　05　（両学科合同） 教室：2111／担当：吉川　満
　06　（両学科合同） 教室：2111／担当：竹内信行
　07　（両学科合同） 教室：2111／担当：上瀬真生
　08　（両学科合同） 教室：2111／担当：森澤龍也
　09　（両学科合同） 教室：2111／担当：羽森直子
　10　（両学科合同） 教室：2111／担当：三原裕子
　11　（両学科合同） 教室：2111／担当：三谷哲雄
　12　（経済学科）　 教室：2111／担当：辻　美代
　　（経済情報学科）教室：2110／担当：上田真由美
　13　（経済学科）　 教室：2111／担当：中島孝子
　　（経済情報学科）教室：2110／担当：間　　傷
　14　（経済学科）　 教室：2111／担当：村上友章
　　（経済情報学科）教室：2110／担当：浦田　清
15 （両学科合同） 教室：2111／担当：代表教員(三谷)＋経済情報学科主任／主題：最終課題(目標到達確認)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

教員ごとに異なります．

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

[01]　　配布資料とともに履修要項や科目一覧表などを参考に学びの概要を復習（４時間程度）
[02～14]　各教員のプロフィールや担当科目，科目概要，自分の興味や関心事項などを予習・復習（各４時間程度）
[15]　　最終課題の内容に基づき詳細な授業計画を作成（４時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定・学位授与の方針（DP:ディプロマ・ポリシー）に示されている要件に対する当該授業科目の寄与の程度を行頭の [] 内に４段階（０～３）に分けて記載する．各段階の意味は，教務部の指示に従った．

(1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材
[0] 夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる．

(2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
[0] 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)
[0] 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる (情報分析力)
[0] 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
[0] さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)

(3) 創造力 (新しい視点と豊かな発想)を持った人材
[0] 新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる

(4) 自主・自立の精神を持った人材
[0] 物事に自ら進んで取り組むことができる
[0] 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる
[0] 自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる

(5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
[0] 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる
[0] 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

教員ごとに異なります．

実務経験の有無及び活用

教員ごとに異なります．

備考

■受講上のアドバイス■

(1) 講義に関する情報はRYUKA PortalのMy時間割やキャンパス クロス(RYUKA Portalからもアクセス可能)で確認すること
受講生の皆さんへの連絡（講義に関する案内，講義資料の配布，レポート課題の掲示など）は，授業中だけではなく，適宜，RYUKA Portalやキャンパス クロスでも行います．講義資料の配布ページには，掲載期限があります．掲載期限を過ぎたら，閲覧やファイルのダウンロードができなくなります．連絡を受けたら速やかにダウンロードし，自分のPCやスマホなどの端末に必ず保存してください．レポート課題には，提出期限があります．また，レポートを提出した後は，その提出状況を必ず確認してください．

(2) 講義資料